



元和のキリシタン弾圧

京都・家族旅④

世界的にも有名な日本キリシタン弾圧、8人は獄中で死亡、残る25人と一旦は釈放さにも勝る残酷な行為をした。

その殉教地といえば世界遺産の大浦天主堂のある長崎。それと並んで京都が日本三大殉教地であることを今回の京都の旅で初めて知った。

慶長17年(1612)徳川幕府はキリシタン弾圧を本格的に始めた。7年後の元和5年(元和は江戸前期・後水尾天皇朝の元号である)「元和の大弾圧」があり、63人の一般信



元和キリシタン殉教の地

者が「藤屋清七」とある。私の「藤屋」という姓は全国でも珍しい方で急に親しみを覚える。そこで必要な土産のほとんどはここで買い求めた。



津和野・乙女峠祭の口ザリオの行進は少女が聖母マリアを担ぐ

さらに甘春堂の創業者が「藤屋清七」とある。私の「藤屋」という姓は全国でも珍しい方で急に親しみを覚える。そこで必要な土産のほとんどはここで買い求めた。

横には何も書かれていない。また、説明の立て看板もなかった。ここにも京都の大殉教が余り知られていない一因があるような気がする。



殉教地近くの「甘春堂」

り参加している。津和野の神父様に頼まれてこの行進の先唱には私の声が流れるのは私の数少ない誇りの一つである。

先日、骨董商の友人から大分県黒川温泉の蔵から古い木像のイエス・キリスト像、王冠をかぶる聖母マリア、アウグスチヌス会のトンスーラ(頭の一部を剃った)神父様像やトンスーラの頭のプラザーの本体が出てきたので、一体5万円で買わないかと言われた。津和野カトリック教会の資料館が整備される時、この5体の木像を寄付する予定である。

広島教区では今「高山右近の列福運動」が行われている。この5体の像が右近の列福運動に役立つことを願うばかりである。京都の殉教地も津和野と同じよう大切にされることを願うのである。